

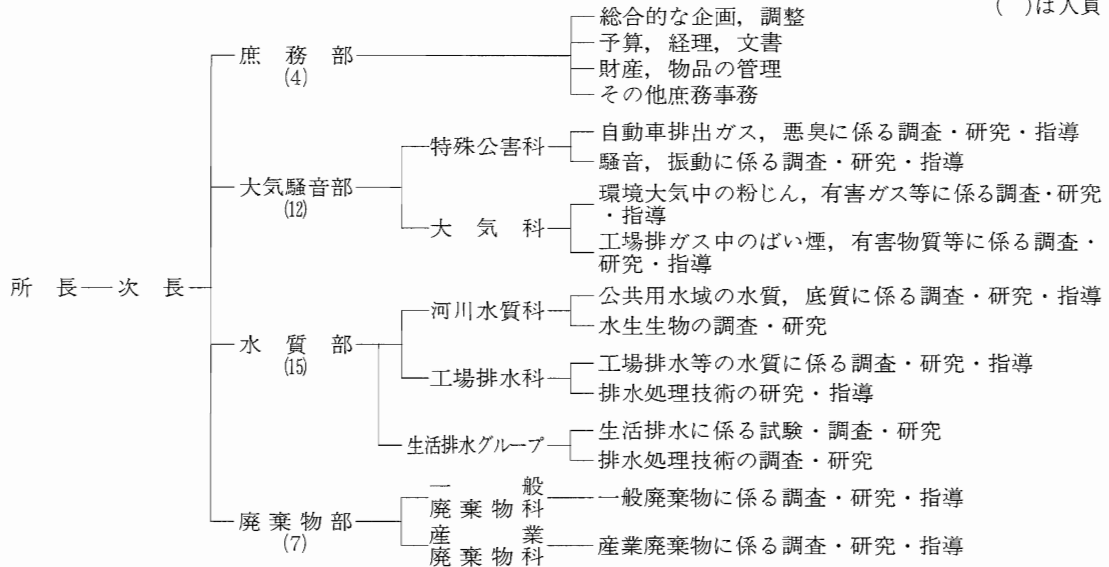
## 業務概要

### ○沿革

- 昭和43年11月 衛生研究所に公害研究部を新設する。
- 昭和45年10月 衛生研究所公害研究部を廃止して、公害センターを新設し、庶務係、研究部（第1科・第2科）を設置する。
- 昭和46年5月 テレメーター準備室を設置し、1係1部(2科)1室とする。
- 昭和47年5月 テレメーター準備室をテレメーター室と改め、研究部に第3科を設置する。
- 昭和48年7月 次長制を採用し、庶務係を庶務課と改め、研究部を廃止して、大気騒音部（第1科・第2科）、水質部（第1科・第2科）を設置し、1課2部(4科)1室とする。
- 昭和50年5月 大気騒音部第1科・第2科をそれぞれ同部特殊公害科・大気科と改め、水質部第1科・第2科をそれぞれ同部河川水質科・工場排水科と改める。
- 昭和54年4月 テレメーター室を大気保全課に移管し、1課2部(4科)とする。
- 昭和57年4月 庶務課を庶務部と改めるとともに、衛生研究所環境衛生部衛生工学科・廃棄物科が移管され、それぞれ廃棄物部一般廃棄物科・産業廃棄物科と改め、4部(6科)とする。
- 昭和58年4月 水質部に生活排水グループを設置する。

### ○組織及び業務内容

昭和59年11月1日現在  
( )は人員



### ○職員

昭和59年11月1日現在

区分	人員	人 員 内 訳												
		所長	次長	庶務部	大気騒音部			水質部				廃棄物部		
					部長	特殊公害科	大気科	部長	河川水質科	工場排水科	生活排水グループ	部長	一般廃棄物科	産業廃棄物科
事務吏員	4	1		3										
技術吏員	32		1		1	6	5	1	6	4	2	1	2	3
技能職員	試験検査助手	3								1	1		1	
	自動車運転手	1		1										
計	40	1	1	4	1	6	5	1	7	5	2	1	3	3

○事務分掌

昭和59年11月1日現在

部	部科名・職名	氏名	事務分 担	
	所 長	山 本 八 郎	所内統括	
	次 長	松 本 幸次郎	所長補佐	
庶 務 部	庶 務 部 長	吉 澤 幸 男	部内統括, 予算	
	主 任	倉 橋 久 江	経理, 福利厚生, 一般庶務	
	主 任	田 中 翠 子	経理, 物品, 決算	
	技 師	金 子 光 孝	自動車の運行・管理	
大気騒音部	大 気 騒 音 部 長	北 野 拓	部内統括	
	特殊公害科	特殊公害科長	新 井 真 杉	科内統括
		主 任	昆 野 信 也	悪臭・光化学物質の試験検査・調査研究
		主 任	松 岡 達 郎	振動・騒音の試験検査・調査研究
		技 師	江 角 光 典	自動車排ガス・悪臭の試験検査・調査研究
		技 師	門 井 英 雄	悪臭・自動車排ガスの試験検査・調査研究
		技 師	白 石 英 孝	騒音・振動の試験検査・調査研究
	大 気 科	大 気 科 長	水 上 和 子	科内統括
		主 任	小 川 和 雄	粒子状物質の試験検査・調査研究
		主 任	野 辺 博	有害ガスの試験検査・調査研究
		技 師	石 井 達 三	粒子状物質の試験検査・調査研究
	水 質 部	水 質 部 長	伊 藤 安 男	部内統括
河川水質科		河川水質科長	五 井 邦 宏	科内統括
		主 任	長 島 藤太郎	河川水質等の試験検査補助
		主 任	須 貝 敏 英	河川水質等の試験検査・調査研究
		主 任	杉 崎 三 男	河川水質等の試験検査・調査研究
		主 任	丸 山 由喜雄	河川水質等の試験検査・調査研究
		主 任	岡 崎 勉	河川水質等の試験検査・調査研究
工場排水科		工場排水科長	鈴 木 征	科内統括
		主 任	吉 原 ふみ子	工場排水水質等の試験検査補助
		主 任	谷 口 通 朗	工場排水水質等の試験検査・調査研究
		主 任	山 口 明 男	工場排水水質等の試験検査・調査研究
生活排水グループ		技 師	野 尻 喜 好	工場排水水質等の試験検査・調査研究
		主 任	北 川 豊 明	生活排水水質等の試験検査・調査研究
廃 棄 物 部		主 任	植 野 裕	生活排水水質等の試験検査・調査研究
	廃 棄 物 部 長	吉 岡 勝 平	部内統括	
	一般廃棄物科	一般廃棄物科長	丹 野 幹 雄	科内統括
		主 任	稲 垣 礼 子	一般廃棄物の試験検査補助
	産業廃棄物科	主 任	清 水 典 徳	一般廃棄物の試験検査・調査研究
		産業廃棄物科長	小 林 進	科内統括
主 任		小 野 雄 策	産業廃棄物の試験検査・調査研究	
	技 師	稲 村 江 里	産業廃棄物の試験検査・調査研究	

○ 予 算

昭和58年度

歳 入

(単位 円)

科 目	最終予算額	備 考
⑥ 使用料及び手数料	2,999,000	
(2) 手 数 料	2,999,000	
1) 総務手数料	2,999,000	
2 環境手数料	2,999,000	
⑦ 国庫支出金	5,292,000	
(2) 国庫補助金	4,230,000	
1) 総務費国庫補助金	4,230,000	
4 環境費補助金	4,230,000	
(3) 委 託 金	1,062,000	
1) 総務費委託金	1,062,000	
4 環境費委託金	1,062,000	

歳 出

(単位 円)

科 目	予 算 (令 達) 額			備 考
	公害センター分	行政等各課分	総 額	
② 総 務 費	44,241,000	20,627,530	64,868,530	
(1) 総務管理費		197,530	197,530	
1) 一般管理費		197,530	197,530	
9 旅 費		3,250	3,250	
11 需用費		186,580	186,580	
14 使用料及び賃借料		7,700	7,700	
(2) 企 画 費		345,000	345,000	
2) 企画調整費		345,000	345,000	
9 旅 費		65,000	65,000	
11 需用費		280,000	280,000	
(3) 環 境 費	44,241,000	20,085,000	64,326,000	
1) 環境総務費		60,000	60,000	
3 職員手当等		60,000	60,000	
3) 公害対策費	44,241,000	16,725,000	60,966,000	
7 賃 金	1,175,000	97,000	1,272,000	
8 報 償 費		354,000	354,000	
9 旅 費	3,277,000	1,751,000	5,028,000	
11 需用費	13,879,000	13,436,000	27,315,000	
12 役 務 費	1,293,000	21,000	1,314,000	
13 委 託 料	1,218,000	812,000	2,030,000	
15 工事請負費		254,000	254,000	
18 備品購入費	23,343,000		23,343,000	
27 公 課 費	56,000		56,000	
4) 廃棄物対策費		3,300,000	3,300,000	
7 賃 金		88,000	88,000	
9 旅 費		128,000	128,000	
11 需用費		3,084,000	3,084,000	

## 昭和58年度事業概要

### ◎ 大気騒音部

#### ○ 特殊公害科

##### 1 行政検査・行政調査

###### (1) 自動車排出ガス調査

道路交通公害総合調査事業(大気保全課)のひとつとして、県内の主要幹線道路及び車の渋滞の著しい地点を測定点として、22市町の協力のもとに一酸化炭素、二酸化窒素濃度を調査した。調査期間は1市町当たり約1か月であった。

###### (2) 道路交通騒音に関する調査

道路交通公害総合調査事業(大気保全課)のひとつとして、道路交通騒音対策マニュアルを作成するために、道路規模別の騒音実態調査を行った。調査対象は車線数、交通量の異なる県内主要幹線について、道路端から100mまでの騒音レベルを交通量、車速とともに測定し、重回帰モデルに当てはめて道路規模別の騒音レベル分布を推定した。

###### (3) 沿道汚染解析

道路交通公害総合調査事業(大気保全課)のひとつとして、沿道局と環境局の汚染質濃度を比較し月別、時刻別、風向風速別、安定度別変化から、沿道局の特徴を調査した。また、沿道局の汚染質濃度と交通量の関係から、交通量調査結果とNO<sub>x</sub>濃度との相関散布図を作成した。

###### (4) 悪臭防止に関する調査

悪臭防止対策事業(大気保全課)のひとつとして、条例対象業種を拡大するための基礎資料を得るために、アスファルトプラント、ガラス研磨工場等からの悪臭を各事業場の敷地境界、作業場内で三点比較式臭袋法により測定した。

###### (5) 低周波空気振動に関する調査

低周波空気振動調査事業(大気保全課)のひとつとして、低周波空気振動公害に係る苦情処理のために、金属加工業、コンクリート製品製造業などの音源の特定、発生機構の解明を行い、防止方法を検討して提示した。また、新幹線高架橋および道路橋からの低周波空気振動の実態とその発生機構を推定するため、構造別、スパン長別に分類し、その橋梁直下において、音圧測定、距離減衰測定及び床版の振動加速度測定を行った。

##### 2 依頼検査

市町村の依頼により悪臭、騒音、振動について調査し、防止対策などを提示した。

##### 3 調査研究

###### (1) 環境予測手法および情報処理技術に関する研究

環境影響評価は環境予測手法及び情報処理技術に負うところが大きいので、これらの技術的基礎資料を得ることを目的として、各種の環境予測手法の適用範囲を検討するため感度解析を行い、あわせて理解しやすいように、その図型化を検討した。なお、この研究は大気科と共同で行った。

###### (2) 自動車排出ガスの多環芳香族炭化水素による大気汚染に関する研究

道路及びその周辺において、自動車交通に起因する多環芳香族炭化水素、特に発がん作用や発がん促進作用を示すベンゾ(a)ピレンを中心に汚染実態調査を行った。それにともない試料のサンプリング法、抽出法、分離法の検討をした。

(3) 地盤と家屋の振動特性に関する研究

県内の各種地盤と住宅構造物との共振性能を明らかにし、地盤に応じた適正な住宅構造の抽出を目的とするもので、本年度は沖積地盤及び沖積軟弱地盤上の盛土地盤の振動特性を調査した。その一部を本年報(55ページ)に掲載した。

(4) 非特定重大障害物質発生源等対策調査(環境庁委託事業)

マンガンについて鋳造工場からの排出実態を把握し、発生源と周辺環境の因果関係を明らかにした。なお、本調査は大気科との共同調査である。

4 昭和58年度 試験検査等実施状況

検査項目 検査の種類	窒素 酸化物	自動車 排ガス (自動測定機)	法定 悪臭物質	その他の 有機物質	悪臭物質 (官能法)	騒音	振動	低周波 空気振動	計
行政	1,248	14,784	28	0	105	380	130	640	17,315
研究	0	0	0	400	0	0	680	0	1,080
計	1,248	14,784	28	400	105	380	810	640	18,395

○大気科

1 行政検査・行政調査

(1) 浮遊粉じん中の重金属調査

大気環境特別対策事業(大気保全課)のひとつとして、一般環境中の浮遊粉じんに含まれる重金属による汚染の実態を明らかにする目的で毎月1回調査を実施した。測定地点は所沢、戸田、大宮、越谷、熊谷、秩父市(秩父市は年4回)の6市で、調査項目は粉じん量、カドミウム、ニッケル、鉛、亜鉛、クロム、バナジウムであった。

(2) 酸性降雨等の調査

酸性降雨等対策事業(大気保全課)のひとつとして、毎降雨時に雨水の採取を行い、pH、電気伝導度、硫酸イオン、硝酸イオン、塩素イオン、アンモニウムイオンの測定を実施した。これらの測定結果をもとに雨水成分の経年変化、汚染物質相互間の相関等の解析を行い、発生源と環境大気の因果関係を解明する基礎資料を得た。また、梅雨期の2週間、1都8県1市共同で湿性大気汚染調査を実施し、広域汚染の実態把握、酸性降雨の汚染機構の解明を行った。

(3) 粒子状物質による沿道汚染実態調査

道路交通公害総合調査事業(大気保全課)のひとつとして、自動車排出ガス中に含まれる硫酸塩及び重金属による沿道汚染の実態を調査し、交通量と粒子状物質との関係及び粒子状物質の拡散についての基礎資料を得た。

(4) 苦情対象施設に関する調査

公害監視指導事業(大気保全課)のひとつとして、苦情対象工場及びその周辺で粉じん、硫黄酸化物、塩化水素、重金属の測定を行い、地域環境保全のための監視指導の資料を提供した。主な苦情対象施設は亜鉛めっき工場、鉛二次精練工場、被覆電線処理工場などであった。

2 調査研究

(1) 沿道大気汚染構造に関する研究

沿道大気汚染対策と沿道汚染予測のため、交通量とNO<sub>x</sub>、NO<sub>2</sub>濃度との関係の解明及びNO<sub>x</sub>濃度を推定する統計モデルの作成等を行って、汚染の実態を適確に把握し、そのメカニズムを発生源と環境との両面から総合的に検討した。

(2) 都市ごみ焼却における公害防止に関する調査研究

都市ごみ焼却に伴い発生するばい煙の排出実態を明らかにし、適切かつ効果的なばい煙防止方法を検討するための調査を実施した。調査内容は電気集じん装置、マルチサイクロン及び塩化水素除去装置の入口・出口でばいじん及びその粒径分布、ばいじん中の各種金属、塩化水素、窒素酸化物等を測定し、ばい煙処理装置の効率を検討、評価した。この結果を本年報(72ページ)に掲載した。

3 昭和58年度 試験検査等実施状況

検査項目 検査の種類	pH	電気伝導度	硫酸イオン	硝酸イオン	塩素イオン	アンモニウムイオン	ホルムアルデヒド	粉じん	煙道ばいじん	クロム	バナジウム	カドミウム	鉛	亜鉛	ニッケル	鉄	マンガン
行政	195	195	340	195	195	195	45	554	0	90	90	173	173	173	173	173	173
研究	0	0	166	179	166	0	0	24	231	165	0	138	138	138	138	138	174
計	195	195	506	374	361	195	45	578	231	255	90	311	311	311	311	311	347

検査項目 検査の種類	銅	カルシウム	ナトリウム	カリウム	マグネシウム	水銀	窒素酸化物	硫酸酸化物	塩化水素	塩素	メタン	ハロゲン化炭化水素	酸素	排ガス中の水分	流速	降下ばいじん	計
行政	0	40	40	40	40	0	30	13	12	0	0	0	0	0	0	121	3,468
研究	138	165	165	165	165	412	61	14	40	2	10	14	111	16	29	0	3,302
計	138	205	205	205	205	412	91	27	52	2	10	14	111	16	29	121	6,770

◎ 水 質 部

○ 河川水質科

1 行政検査・行政調査

(1) 公共用水域の定期水質測定

主要河川水質監視事業(水質保全課)のひとつとして、荒川水系ほか3水系の河川の水質測定を定期的実施した。

水系別測定地点数等は、次のとおりである。

水系別測定地点等

水系名	河川数	公害センター採水地点数(類型別)							計	その他(建設省政令3市)	計
		AA	A	B	C	D	E				
荒川	19	1	6	8(1)	1	2(2)		18	25	43	
中川	9				10(1)		4(3)	14	6	20	
新河岸川	6						11(1)	11	0	11	
利根川	7		1	4(1)				5	10	15	
計	41	1	7	12(2)	11(1)	2(2)	15(4)	48	41	89	
公害センター分析地点数		1	6	8	1		10	26			

注1 ( )は、環境基準のあてはめない水域で、合流先河川の類型に含めた河川数である。

2 中川水系の毛長川・水神橋(草加市・東京都足立区界)を測定点として追加した。

(2) 公共用水域等の水質異常に係る水質検査(工場排水科分を含む)

魚類の浮上・へい死、有害物質の環境基準超過等の緊急事態発生時に、原因物質、汚染状況及び発生源究明のため、水質分析を行った。

- ア 発生件数 25件
- イ 検体及び検査項目数 149検体264項目

## 2 調査研究

### (1) 都市河川の汚濁特性に関する調査

汚濁の著しい都市河川を対象として定期調査、通日調査を行い、当該河川の汚濁の特性、汚濁総量の推計を行った。

対象河川 霞川（入間市，狭山市）

### (2) 水質自動測定器による水質評価に関する調査研究

自動測定器を用いて河川水質を評価するためには、採水点の状況、採水・分析(測定)装置の性能、稼動状況等の適確な把握が必要である。

本年度は、UV計を用いて、水質監視測定における実用性を評価するとともに、測定データとCODその他の有機汚濁指標との対比及び測定データを用いて水質評価を行った。その結果を本年報（81ページ）に掲載した。

## 3 昭和58年度 試験検査実施状況

検査項目 検査の種類	pH	溶存酸素量	BOD	COD	SS	大腸菌群数	ロヘキササン排出物質	カドミウム	シアン	有機リン	鉛	六価クロム	ヒ素	総水銀	銅
行政	350	312	316	316	317	180	24	336	401	156	316	319	316	319	15
研究	93		92	92	17										
計	443	312	408	408	334	180	24	336	401	156	316	319	316	319	15

検査項目 検査の種類	亜鉛	溶解性鉄	総窒素	リン酸性リン	総リン	電気伝導度	塩素イオン	その他	気温	水温	透視度	色相	臭気	流量	計
行政	14	4	0	312	312	332	312	6	720	720	720	720	720	60	8,945
研究			92	48	92	15,069		30,308		14,996				60	60,959
計	14	4	92	360	404	15,401	312	30,314	720	15,716	720	720	720	120	69,904

## ○工場排水科

### 1 行政検査・行政調査

#### (1) 工場・事業場排水汚染状況調査

工場・事業場排水規制事業（水質保全課）のひとつとして、水質汚濁防止法及び県公害防止条例に基づき、保健所（中央，川越，熊谷，春日部）公害監視室等が行った立入検査等による検体の分析検査を行った。

分析検査対象の主たる施設及び検体数は、次のとおりである。

施設名	工場・事業場数	検体数	施設名	工場・事業場数	検体数
し尿処理施設	136	141	畜産食料品製造業	15	16
電気めっき施設	81	96	ガラス製品製造業	12	13
酸又はアルカリによる表面処理施設	70	85	その他法対象施設	91	96
試験検査機関	15	21	条例規制対象施設	62	69
水道施設	15	16	計	497	553

注1 中央：268検体 川越：157検体 熊谷：61検体 春日部：67検体 計553検体

注2 調査項目は、pH, BOD, COD, SS, シアン等である。

(2) 事故発生時の原因究明調査

公共用水域等の水質異常に係る水質検査(河川水質科)にまとめて記載した。

2 調査研究

(1) オゾンによる排水処理の検討

現在、直接色に係る規制はなされていないが、しばしば目視による汚染が問題視されてきている。そこで、着色水の脱色に有効なオゾンを利用し、パルプ・紙・紙加工品製造業排水を対象に排水処理の調査を行い、オゾン処理を適用した場合の脱色の効果などについて検討した。

なお、引続き59年7月から染色排水について、オゾンによる脱色及びCOD低減を課題として研究を行い、昭和58年度の結果とともに本年報(86ページ)に掲載した。

(2) 工場等排水処理法実態調査(情報科学振興長の共同研究)

工場・事業場の排水基準違反件数は、監視指導の強化により徐々に減少してきているが、依然として立入検査総数の約20%が排水基準を超過している。

このため、昭和53年度から、当センターでは、排水処理施設の維持管理技術及び管理体制の向上を図るため、電気めっき施設をはじめとして業種別に、生産工程、排水処理施設の構造、処理能力及び維持管理状況等について調査し、その問題点などを解明してきた。

本年度は、し尿処理施設について実態調査を行った。

なお、この結果については、「環境保全対策・省エネルギー省資源対策に係る共同研究報告書」に掲載するとともに、本年報(86ページ)にその抄録を掲載した。

3 昭和58年度 試験検査実施状況

検査項目 検査の種類	pH	BOD	SS	COD	シアン	全クロム	六価クロム	カドミウム	鉛	銅	亜鉛	高溶解性鉄	高溶解性マンガン	ヒ素	フェノール類	有機リン	ニッケル排出物質	全水銀	フッ素
行政	477	374	250	295	116	68	64	22	44	53	75	43	10	2	1	1	28	15	23
研究	78	63	43	153															
計	555	437	293	448	116	68	64	22	44	53	75	43	10	2	1	1	28	15	23

検査項目 検査の種類	全リン	全窒素	アンモニウム性窒素	亜硝酸性窒素	硝酸性窒素	全有機炭素	リクエン	E260	E220	色度	蒸気残留物	高溶解性炭素残留物	強熱減量	溶存酸素量	色相	透視度	電気伝導度	計
行政	118	119																2,198
研究		43	38	24	24	731	98	162	96	737	4	4	4	32	50	25	43	2,452
計	118	162	38	24	24	731	98	162	96	737	4	4	4	32	50	25	43	4,650

○生活排水グループ

1 調査研究

生活排水処理法に関する調査

各種生活排水処理方法の処理効果と問題点を明らかにし、有効適切な処理方法を検討するため、既設の処理施設(共同処理施設2か所、個別処理施設4か所)の維持管理状況、機能調査及び浸透水の周辺土壌への影響調査を実施した。

その結果を第1報及び第2報として取りまとめ、本年報(93ページ及び99ページ)に掲載した。



2 昭和58年度 試験検査実施状況

検査項目 検査の種類	pH	BOD	COD	SS	アンモニア性窒素	亜硝酸性窒素	総窒素	総リン	電気伝導度	塩素イオン	硝酸性窒素	有機態窒素	計
行政		6											6
研究	280	160	161	155	30	30	96	126	280	39	30	30	1,417
計	280	166	161	155	30	30	96	126	280	39	30	30	1,423

◎ 廃棄物部

○ 一般廃棄物科

1 行政検査・行政調査

一般廃棄物処理施設等検査監視指導事業（環境整備課）のひとつとして、県内のし尿処理施設、ごみ処理施設等の一般廃棄物処理施設を対象に、その維持管理の実情を把握するとともに行政指導の資料とするための検査を実施した。

なお、実施した施設及びその数などは、次のとおりである。

区分	施設数	検体数	項目数
し尿処理施設	118	118	816
ごみ処理施設	54	64	126
最終処分場	10	24	160
し尿浄化槽	4	4	4

2 一般依頼検査

し尿浄化槽放流水(207検体)、並びにし尿処理施設の一、二次処理水及び放流水など(50検体)についての水質分析を実施した。

3 調査研究

(1) 河川水の汚染浄化対策に関する衛生的総合調査（情報科学振興長との共同研究）

衛生研究所、水産試験場との共同研究として荒川、新河岸川及び久保川の水質並びに底質調査を行った。この結果については、「環境浄化対策・省エネルギー省資源対策に係る共同研究報告」（昭和58年度）に掲載した。

(2) し尿処理施設の実態調査（工場排水科との共同事業）

工場・事業場の排水処理施設の維持管理技術の向上を図る目的で、し尿処理施設の排水処理施設の構造、維持管理状況及び汚濁物質の浄化機能などの実態を調査した。この結果については「環境浄化対策・省エネルギー省資源対策に係る共同研究報告書」（昭和58年度）に掲載した。

4 昭和58年度 試験検査実施状況

検査項目 検査の種類	pH	溶存酸素量	BOD	COD	SS	大腸菌群数	カドミウム	鉛	総水銀	塩素イオン	全リン	リン酸イオン	全窒素	アンモニア性窒素
行政	134	0	138	134	130	108	40	44	28	118	0	0	0	118
依頼	99	0	149	235	149	111	0	0	0	50	0	0	2	48
研究	32	32	32	16	20	4	0	0	0	38	86	29	43	0
計	265	32	319	385	299	223	40	44	28	206	86	29	45	166

検査項目 検査の種類	亜硝酸 性窒素	硝酸性 窒素	有機態 窒素	透視度	色調	水分	強熱 減量	熱灼 減量	全シアン	全有機 炭素	六 価 クロム	ヒ素	計
行政	0	0	0	0	0	0	0	54	28	0	28	4	1,106
依頼	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	855
研究	59	5	5	0	19	19	19	0	0	59	0	0	517
計	59	5	5	12	19	19	19	54	28	59	28	4	2,478

○ 産業廃棄物科

1 行政検査

産業廃棄物監視指導事業に伴う行政検査

産業廃棄物最終処分地に係る問題や、不法投棄事件などの行政検査を行った。

検査は、総水銀・カドミウム等の有害項目を主に、他に埋立地でのトラブル解決等のためには、さらに環境項目についても行った。総検査項目数は昨年度より約200項目増加し、1,783であった。

2 調査研究

(1) 埋立における重金属等の動向に関する実験的検討（情報科学振興長の共同研究）

埋立てられた廃棄物がどのように変化し、それにより重金属等の溶出はどうなるのかを調べるため、廃棄物をカラムにつめ、水で溶出させ、重金属など26項目について検討した。

検討結果については「昭和58年度環境保全対策・省エネルギー省資源対策に係る共同研究報告書（昭和59年10月）」に報告した。

(2) 排水中各種成分の除去機構に関する研究（情報科学振興長の共同研究）

産業廃棄物の最終処分による環境への影響を検討するため、大規模管理型埋立地から浸出する汚水の性状やその経時的変化・浸出汚水の処理施設における汚濁成分の処理効果などについて調査した。調査結果は「昭和58年度環境保全対策・省エネルギー省資源対策に係る共同研究報告書（昭和59年10月）」に掲載した。

3 昭和58年度 試験検査実施状況

検査項目 検査の種類	pH	EC	Eh	総水銀	カドミ ウム	鉛	六 価 クロム	ヒ素	全 シアン	BOD	COD	カリ ウム	ナトリ ウム	カルシ ウム	マグネ シウム	鉄	マン ガン	銅	亜鉛
行政	153	143	0	156	314	159	155	156	158	1	1	15	15	15	15	17	17	20	20
依頼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研究	109	109	109	65	109	109	109	109	109	69	167	189	189	189	189	189	189	189	189
計	262	252	109	221	423	268	264	265	267	70	168	204	204	204	204	206	206	209	209

検査項目 検査の種類	ニッ ケル	総 クロム	硫黄	TOC	TIC	有機酸	全窒素	アンモ ニア性 窒素	硝酸性 窒素	亜硝酸 性窒素	有機態 窒素	全リン	PCB	メタン ガス	水分	トリク レン	塩 素 イオン	計
行政	17	138	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	1	69	2	0	1,783
依頼	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研究	189	109	21	154	13	65	143	143	143	143	34	143	0	0	0	0	69	4,054
計	206	247	22	154	13	65	143	143	143	143	34	143	25	1	69	2	69	5,837

な  
（  
D  
を  
さ  
る  
位  
  
1  
  
と  
置  
に  
た  
て  
身  
  
—  
—